

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	卵巣癌の再発に関する後方視的検討
	研究目的	<p>現在卵巣癌治療は初回化学療法に関しては標準化されているが、再発時（特にプラチナ耐性獲得後）の治療に関して複数のレジメンが推奨されているもののその順位付けなどはなされていない。そのため、各施設間によりばらばらな治療が行われていることが現状である。また卵巣癌は様々な組織型が存在するがそれぞれの組織型に応じた治療も現在推奨されるものはないため、卵巣癌治療は他癌腫で推奨されるような個別化治療の方向に向かっているとは言い難い。</p> <p>本研究の目的は、再発卵巣癌の治療において現在推奨されている複数のレジメンから最も有効性の高いものを見出し、再発卵巣癌における治療の優先順位を確立することである。また組織型に応じた有効性の高い治療法を見出し、卵巣癌治療における個別化を推進させることにある。</p>
	研究期間	2016年3月31日から2018年5月31日
利用する試料・情報の項目 （チェック[X]が入った項目を利用します）		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物（尿・便） <input type="checkbox"/> その他（記載して下さい） <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	研究責任者	中西一步 加藤久盛 片山佳代子
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施 診療科/部局等	婦人科 臨床研究所
	共同研究の場合、共同 研究機関および各施 設での研究責任者	なし